

石船神社

この神社は、14 世紀の護良親王(もりながしんのう)の御首級という、非常に珍しい崇拝の対象を祀っていることでよく知られています。この護良親王は、有力な戦士である足利直義に対抗し、結果的に現在の東京近くで捕らえられ、鎌倉で斬首されてしまいました。執行時にその場にいた皇女は、頭を布に包んで逃げ出し、最終的に都留に到着しそこで亡くなりました。17 世紀初頭、護良親王の顔を再構成するため、この御首級は、漆とおがくずの層で覆われ、磨かれた水晶が目として挿入されました。そのすばらしい職人技に加え、長い間崇拝されてきたことから、護良親王の御首級は市の文化財に指定されました。この御首級は毎年 1 月 15 日に展示されます。

石船神社は、ムササビが生息する場所としても知られています。この夜行性の動物は神社の周りの木々の中に住み、夕方になると食べ物を探しまわります。ムササビが人々の近くに生息している地域は稀なので、神社への訪問は、ムササビを観察する良い機会にもなります。